

令和2年度 碧南市文化財展

矢作川開削と

下流域村々の変容



上塚橋 旧橋と新橋（碧南市鷺林町～西尾市上町） 昭和写真館（春日町）提供
昭和10年架け替え工事を鷺塚側から島崎重徳氏が撮影

令和2年 10月31日(土)～12月2日(水)

観覧無料

午前9時～午後9時（月曜日休館）

ただし、11月23日（月・祝）は開館し、翌日休館

会場 / 碧南市文化会館
1階 展示室1
（愛知県碧南市源氏神明町4）

主催 / 碧南市教育委員会

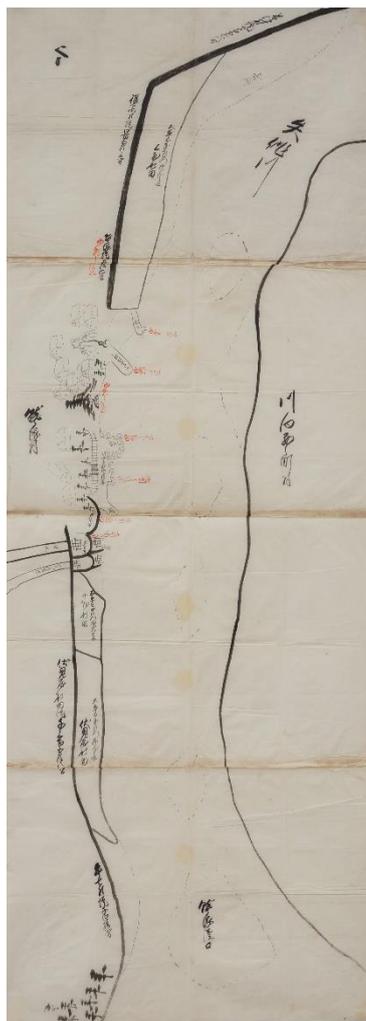
主管 / 碧南市文化財保護審議会



大浜湊（「大濱港ヨリ知多半島ヲ望ム」とある）
絵葉書（碧南市蔵）より 年代不詳
大浜湊は中世以来、物資の集散地であった。

矢作川開削と下流域村々の変容

慶長10年(1605)矢作新川が開削されたことで、北浦、東浦の海へ矢作川本流の水が流れ込むことになりました。この出来事が、後に碧南市を構成する村々の風景を大きく変えました。開削部分と入海には大きな高低差があり、通水直後は現在の矢作古川の水でさえ逆流し開削部分へ流れ込んだといわれています。激しい水流が、両河岸の土を崩したことから、川幅はみるみるうちに広がったと記録されています。

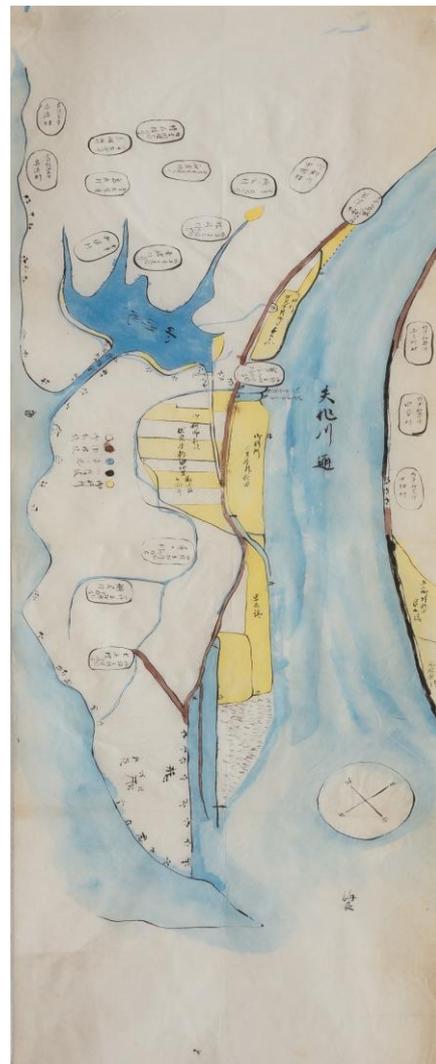


鷺塚湊絵図(遍照院蔵)

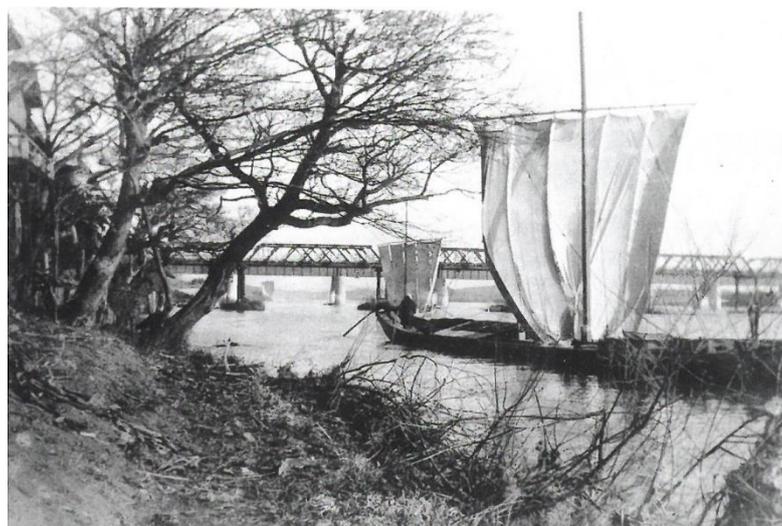
落が形成されました。本年度の文化財展は、矢作川開削を起点とした産業、地形などの変容を紹介します。

大量の水と土砂が北浦、東浦の海へ流れ込んだことから、海岸沿いの村々の環境と生活は大きく変わりました。中世より海湊として栄えていた鷺塚湊、大浜湊へは矢作川水運の川船も出入りするようになり、三河でも屈指の湊へと重要性が増すことになりました。やがて鷺塚湊、大浜湊は、江戸への廻船でにぎわう湊へと変容しました。矢作川流域で生産された三河酒、三河木綿、三州瓦が江戸への「下りもの」として人気を博しました。これら産品は、くだらないの語源ともなる「下らないもの」とは一線を画していました。

本流となった矢作川は、上流で浸食した土砂を絶えることなく下流域へ押し流し、流砂は北浦や東浦の入り江に堆積しました。下流域では新田開発が進み、平七、伏見屋、前浜などへ人々が移り住んで、近世の新田集



1800年頃の伏見屋外新田絵図
(碧南市蔵)



五反帆の川船(「碧南風土記抄」より転載)

碧南市教育委員会 文化財課
市史資料調査室

〒447-0872

愛知県碧南市源氏神明町2
市民図書館中部分館 2階

TEL(0566)41-4566

主な展示品(パネル展示を含む)

- ① 市史資料調査室作成予想地図(碧南市域を中心に)
- ② 碧南市所蔵古地図(新田開発関係・新川開削関係)
- ③ 碧南市所蔵古文書(新田開発・廻船関係)
- ④ 廻船関係・漁業関係民俗資料(道具類・廻船模型)
- ⑤ 三河酒、三河木綿、三州瓦、製塩関係史資料